

雨水出水浸水想定区域図（鞍壺排水路 排水区域） S=1:5000 (A3)



凡例

浸水した場合に想定される水深
(ランク別)

- 0.10m~0.30m未満
- 0.30m~0.50m未満
- 0.50m以上
- 鞍壺排水路 排水区域界
- 鞍壺排水路
- 避難ルート（令和6年ハザードマップより）
- 水位観測所
- 避難所（令和7年2月時点）
- 要配慮者利用施設（令和7年2月時点）

飛驒川

下呂市役所

要配慮者利用施設01

避難所01

避難所02

要配慮者利用施設02

要配慮者利用施設08

要配慮者利用施設03

避難所03

要配慮者利用施設07

要配慮者利用施設04

要配慮者利用施設05

要配慮者利用施設06

避難所名	施設名
避難所01	下呂交流会館
避難所02	下呂交流会館駐車場
避難所03	下呂市民会館

要配慮者利用施設名	施設名
要配慮者利用施設01	岐阜県立下呂温泉病院
要配慮者利用施設02	ファミリア下呂
要配慮者利用施設03	下呂中央児童館
要配慮者利用施設04	下呂市障がい者就労支援センター
要配慮者利用施設05	青島デンタルクリニック
要配慮者利用施設06	ハビネス下呂
要配慮者利用施設07	下呂市立休日診療所・下呂保健センター
要配慮者利用施設08	おくむらクリニック

確率年	降雨強度
1000年	1時間最大降雨強度：147mm/h

雨水出水浸水想定区域とは一時的に大量の降雨（想定最大規模降雨※1）が生じた際、下水道施設や河川に雨水が排除できなくなった場合に浸水（内水氾濫※2）が想定される区域を指し、鞍壺排水路の排水区域が該当します。

※1 想定最大規模降雨
水防法に規定する想定し得る最大規模の降雨であって1年間に発生する確率が概ね1/1000（0.1%）以下の降雨です。

※2 内水氾濫
水害を起こす氾濫は、大きく分けて「外水氾濫」と「内水氾濫」の2種類があります。

「外水氾濫」とは、大雨によって川があふれて、市街地側に流れ込み、浸水してしまう現象です。

「内水氾濫」は、市街地に降った雨が、通常なら下水道などから排水されるものが、下水道の排水能力を超えてしまったり、あるいは排水先の河川の水位が上がって、排水できずに浸水してしまう現象です。

1. 説明文
- この図は、水防法の規定に基づく想定最大規模降雨（1時間雨量147mm）が発生した場合に内水浸水が想定される範囲やその深さを表したものです。この図で色がついていない場所は、計算上では浸水しない場所です。しかし、雨の降り方によってはこの図に示されていない場所でも浸水する可能性があり、浸水深も深くなる場合がありますので注意して下さい。
 - この内水浸水想定区域等は、指定時点の下呂市の下水道の整備状況等を勘案して、想定し得る最大規模の降雨（1時間降水量147mm）に伴う雨水出水により内水氾濫が発生した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものです。
 - このシミュレーションは、下水道等の排水施設は一定の排水能力があるものとみなし、地形の高低差などから浸水が想定される範囲やその深さを求めたものです。時間経過に伴う下水道等の排水施設への流入や溢水を考慮した詳細なシミュレーション結果とは、想定される水深・浸水範囲が異なる場合があります。
 - このシミュレーションの実施にあたっては、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨、洪水（飛驒川の破堤または越水）による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深・浸水範囲が実際と異なる場合があります。
 - 水害時において避難や水防活動を開始するタイミングは、お住いの状況等により異なることから、自らの判断で適切に行動してください。

2. 基本事項等
- 作成主体：下呂市
 - 指定年月日：令和7年3月
 - 指定の根拠法令：水防法（昭和24年法律第193号）第14条第2項
 - 指定の前提となる降雨：想定最大規模降雨
 - 浸水想定手法：降雨損失・氾濫解析のみを実施（下水道等の排水能力は一定で考慮）
 - 飛驒川の水位上昇の影響等は考慮していません。シミュレーションは、対象区域を約10m（100㎡程度）のメッシュに分割し、メッシュごとの浸水深を計算しています。下水道等と飛驒川を一体としたシミュレーションではありません。

3. お問い合わせ先
下呂市上下水道部下水道課 電話 0576-52-2460

